

講義型	
問い	オンラインリアルタイム講義型は、教師が中心となって教科書の内容などを教える形態である。教師主導の一方的な講義型授業はオンデマンドが向いているといわれるが、リアルタイムで実施するメリットも多い。そのメリットおよび工夫点を明らかにする。
イメージ	
レイアウト	<SP> <AC> ・T1に子どもたちの学習の様子がよくわかるよう、常に画面上に映しておきたい。 <SJ>一人一端末だとやりやすい。同室だとハウリングするため、できればそれぞれ別室か、グループ毎に部屋を変えて一端末とする必要がある。オーディオ切断と接続のスムーズな切り替え方法があれば同室でも可能。 <RJ>講義している側に、自分の講義内容が大きく映っているモニターと、参加者全員の様子が映っているモニターが必要。講義を受ける側にも、1人1台の端末を用意して、リアルタイムにチャットをしたり、反応を返せるようにしないと、講義が一方的になってしまう。 講義している教員がホストになっていると、参加者の管理やカメラの切り替えに手間取る時がある。T2が共同ホストになるなどの工夫が必要である。
使用する機器	<SP> ・大きいスクリーンやプロジェクターが必要 ・子どもを映すカメラ（話す機会があるならば） <SJ>大型テレビ。教師児童生徒用iPad。 <RJ>大型の画面があると良い。広い会場であれば、スピーカーシステムも必要。 できれば、T2（講義を受けている側の教員）を写す機器や、反応できる端末が必要。
良いところ	<SP> ・全体を把握しやすい（通常の対面授業に近い） ・知識の伝達だけであればいい（決まった内容） ・教室に近い形（導入、まとめは有効では） <AC> <SJ> ・専門の教科担当の先生の授業を受けることができる。 ・レコーディングすることで繰り返し視聴することも可能。 ・自宅でも授業が受けれる。 <RJ> ・資料の提示がしやすい（パワーポイントや動画など） ・視聴者が「話を聞いてみたい」という強い関心を持っている講話者であれば、効果は高い。また、同じ時間を過ごしているという一体感も高まるのでは。 ・講義内容が「知識・技能」の領域であると、効率が良い。「思考・判断・表現」の場合には、他の形態と組み合わせることにより効果的になる。

問題点	<SP> ・一方通行になりがち ・子どもたちの集中力は持続しにくい(年齢が低いほど) ・伝えやすいが確認作業(評価等)が難しい ・耳からの情報が多く、実際の動きとなるとしっかり伝達はされていない ・主体的な...対話的な...という部分は難しい <AC> ・教師にとって子どもたちの理解度を知ることが難しい(評価) <SJ> ・子どもの実態を掴みづらい。 ・動画との差別化。(むしろ動画の方が一時停止したりと児童生徒のペースに合わせやすい点もある) ・集中しづらい <RJ> ・低学年の場合は、基礎的なノート指導が難しい ・低学年は45分間の集中の持続が厳しい(授業の工夫が必要) ・講義者(T1)が、参加者の反応を捉えにくい。理解度がわかりにくい。質問が講義者と質問者の1対1になり、傍観者が多くなる。質問や話し合いの機会が少ない。
工夫点	<SP> ・発表やIREを取り入れる(一方的だと飽きてしまう、集中力の持続が難しい) ・わからないものはすぐにオンライン上から提示することができる <AC> <SJ> ・ロイロノートを用い、その場でノートを提出させたり、チャットで反応させたりと、子どもの活動を取り入れる。 ・視覚的工夫。動画や画像などの資料の多用。 ・(学校再開前)運動チャレンジ動画とチャレンジカードをセットで作成し、ロイロノートで送付。児童生徒はそれを観ながら運動に取り組み、できたらカードを送る。クリアした児童生徒には次のチャレンジカードを送る。 <RJ>講義型の場合もリアルタイムにこだわらず、後でみられる工夫があるとよいかと思う。よくわからなときは繰り返し確認することができる。 リアルタイムだけでなく、その講義についてフォローアップできるように、googleドキュメントやgoogleスライド、padlet(掲示板)などを使うと、学習が広がり深まる。
困りごと	<SP> ・子どもの表情の細かい部分が見えにくい ・手元が見えない→授業時は困る。 ・つぶやきが聞こえにくい。会話がしにくい。 <AC> <SJ> ・手元が見えない ・注目を集める、集中を高める、関心を高める仕掛けが毎回必要。対面よりもこれが顕著なので負担が大きい。 <RJ> ・定期的に目的を持った交流などを入れないと、子どもたちが受け身の授業となってしまう。 ・講義者が1台の端末、受講者側(多人数で1教室の場合)が1台の端末の場合、受講者の理解度が分かりにくい。 ・受講者の講義前後の理解度が分かりにくい。
挑戦したいこと	<SP> ・ゲストを呼ぶ ・それぞれの国の様子(季節など)を伝える(日本⇄ブラジル) ・教師が撮影したものを見せる(現地校との交流、訪問など) ・わからないものをオンライン上から見つけ、提示してみたい <AC> <SJ> ・ゲストティーチャーなど外部の人との関わりが欲しい。 ・別の日本人学校の先生による授業。 ・講義型はもうやらず、児童生徒中心の活動をメインにおいていけるようにする。 <RJ> ・効果的にブレイクルームを活用しながらの講義型授業。活発な意見交換を目指す授業。 ・講義の前後に簡単な質問や内容についての質問、レポートを入れることで、より主体的な活動になるのではないかな。